

■**広岡浅子** 実業家。“一代の女傑”。三井の娘に生まれ、維新に際し婚家のために立ち上り、女性解放・教育にも尽力。

ひろおかあさこ

北斎没・・・1849＝ 京都油小路出水で、**豪商三井の分家の一つ後の小石川家高益の四女**に生まれる。幼名は照。

国定忠治没・1850＝ 1歳： **早くも、大坂豪商広岡家(加島屋)信五郎の次男の許嫁にされる。**

**ペリー来航**・1853＝ 4歳：

三井11家全体を束ねる中心人物となる兄高喜は南家出身で高益の嗣養子に迎えられたもので、年が離れていて、高喜の子高景と姉弟のようになり、何不自由ない環境で、お転婆な男勝りの性格に育つうち、裁縫や茶の湯、生け花、琴の稽古などよりも、四書五経の素読など学問に強い興味を持つが、

五ヶ国条約・1858＝ **9歳**：

**桜田門外変**・1860＝11歳：

**遣欧使節**・・・1861＝12歳： 商家の娘には学問は不要というしきたりから、読書禁止を言い渡され、男女差別を意識するようになる。

**薩摩藩士密航**1865＝16歳：**広岡信五郎と結婚。**

夫が手代に任せて業務に関与しない家柄に疑問を持つも、広岡家は女性が学問や商売に関心抱くことを咎めることがなく、まさに水を得た魚のように、簿記・算術ははじめ次々と身につけて行き、

**大政奉還**・・・1867＝**18歳**：

夫の父広岡久右衛門正饒は人格者で諸藩との取引も多かったが、大政奉還とともに、諸藩からの利子収入が途絶え、**加島屋が一気に存亡の危機に陥った上、**

**明治維新**・・・1868＝19歳：

戊辰戦争終・1869＝20歳：

**当主正饒が死去。信五郎の兄はすでに夭折、自身は養家に出ていたため、家督は信五郎の弟正秋が継ぐ。夫とともに正秋を支えて行くことになり、正秋が大坂の顔役と金融部門を、夫が紡績など商事部門を担当、表向きは信五郎名義で、自ら事業全般をみ始めると、三井の祖とされる高利の母親殊法の血が突然出現したように、商才を発揮し始め、**

**明治6年政変** 1873＝24歳：

三つの反乱・1876＝**27歳**：

長女亀子を出産。  
結婚した時、三井家で身の回りの世話をしてくれていた女性ムメも広岡家に従い、やがて信五郎の側室となつて、4人の子を出産することになるが、家事全般のほか全てについてムメに支えられたことで、自らは外に向かって活動をすることができた。

**明治14年政変**1881＝32歳：

**加島屋再建に奔走、合議制で借金の整理をすすめ、やがて軌道に乗り始めると、炭鉱事業への参画の話が舞い込み、**

秩父事件・・・1884＝35歳：

内閣発足・・・1885＝**36歳**：

**石炭販売代理権を獲得し海外へ輸出を試みるが、輸送経費がかさむのと石炭不況により難航。自ら採掘事業に挑戦、様々な苦難を乗り越えるうち、“九転十起”の信念を得る。**

初の対等条約1888＝39歳：

**帝国憲法発布**1889＝40歳：

夫の弟正秋を頭取に、**{加島銀行}設立。**

夫を社長に、**{尼崎紡績}設立。**

この間、旧小野藩主の子爵一柳末徳の子恵三を亀子の夫に迎えて養嗣子とし、

**日清戦争始**・1894＝**45歳**：

**日清戦争終**・1895＝46歳：

**人手したものの休鉱となっていた{潤野炭鉱}再開発を始め、自ら採掘を監督。その際、単身炭鉱に乗り込み、護身用のピストルを懐に坑夫らと起き伏しを共にしたと伝えられている。**

白馬会・・・1896＝47歳：

土倉庄三郎の紹介で、**梅花女学校校長成瀬仁蔵が来訪、成瀬の著書「女子教育論」に共感、日本女子大学校の設立を支援すべく、自ら巨額の寄付をするとともに、実家の三井家一門にも働きかけ、三井家から目白台の土地を寄付させるに至る。東京へ赴いて、政財界の要人へ協力を要請するなど尽力、西園寺公望、大隈重信はじめ錚々たる人物が支援に乗り出し、それらを介して、人脈も大きく広がって行く。**

八幡製鉄始・1897＝48歳：

Bushidou・・・1899＝50歳：

田中正造直訴1901＝52歳：

教科書疑獄・1902＝53歳：

**{潤野炭鉱}の産出量が急増し、銀行も軌道に乗り始めるたところ、  
弟正秋が門徒代表を務める浄土真宗から保険事業の相談を受ける。  
日本女子大学校が開校。開校後も、上京のたびに来校し、生徒と交流。**

朝日生命(現在のものとは別)・護国生命・北海生命を合併し、初代社長を正秋として**{大同生命}を創業する**など、**加島屋は大阪の有力な財閥となり、鈴木商店の鈴木米、尾張屋銀行の峰島喜代子らとともに、明治の代表的な女性実業家としてその名を馳せるが、**

日比谷公園・1903＝**54歳**：

**日露戦争始**・1904＝55歳：

**日露戦争終**・1905＝56歳：

**伊藤博文暗殺**1909＝60歳：

大逆事件判決1911＝62歳：

**悪性の乳癌となり、手術を受ける。  
手術の成功に、神の力を信じるようになり、宮川経輝より洗礼を受け、社会貢献活動に力を入れ始め、“九転十起生”をペンネームに、当時発行が相次いでいた女性雑誌に多数の論説を寄せて、啓発に努め、**

**明治天皇没**・1912＝**63歳**：

**第一次大戦始**1914＝65歳：

御殿場二の岡の**別荘に、若い女性20人ほどを集めて、合宿勉強会を開始。以降、没するまで毎夏開催、参加者も各方面に広がり、女性解放運動家市川房枝や「赤毛のアン」翻訳者村岡花子らが育って行く。**

本格政党内閣1918＝69歳：

**ペリイ条約**・1919＝70歳：

週刊新聞**{基督教世界}**に連載したものに、自伝を加えて単行本化した「一週一信」出版して、  
東京の自邸で、**\*没した。’普段言っていることが、皆遺言です’と、遺言を残さなかったと言われる。日本女子大学校で追悼会が開催された。**  
没後数年、恵三の妹の夫ヴォーリーズの設計で、存命中の願望だった大同生命ビルが建設される。